

塗装工事に起因するガスの事故の現状について

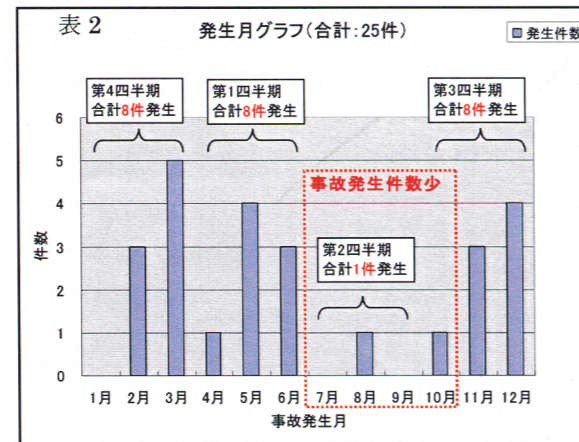
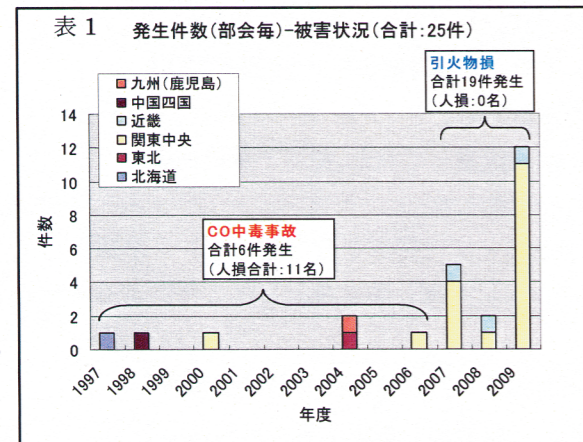
1. 現在の事故状況および目的

塗装工事に起因する^{※1}ガス事故は今まで全国で1~2(件/年)程度発生していたものの、平成21年度は12(件/年)発生し、ここ数年は増加傾向にある(表1)。また、夏季を除く時期に多く発生していることが確認できる(表2)。

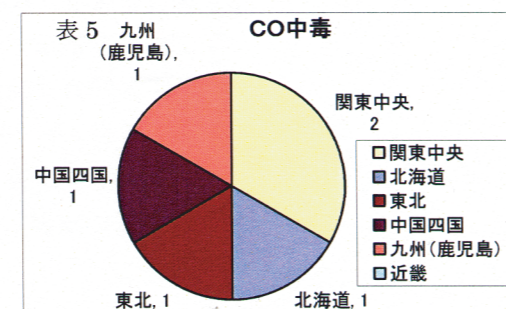
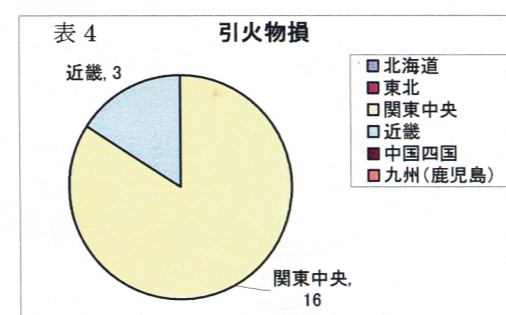
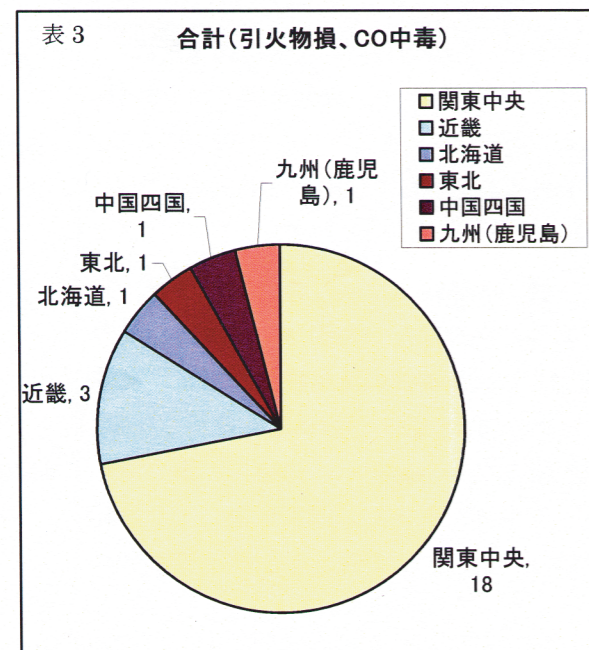
当社供給エリア内では、塗装工事に起因するガス事故は発生していないものの、事業者規模の違いで確率的に発生していないものと考えられることから、全国で発生した事故を当社の潜在リスクと捉え、そのリスクに対策を講ずることで、ガス保安の更なる維持・向上につなげていきたい。

※1 建物の外壁塗装のために、ガス機器の給排気口等を養生シートで覆い、そのままガス機器を使用したためにCO中毒や異常着火による事故が発生している。

[塗装工事に起因する全国のガス事故の状況(1997年~2009年で25件発生)]



[事故内容別 発生状況(1997年~2009年で25件発生)]



2. 事故事例

事故形態	発生年月日	事故概要	都道府県
引火物損	2009年11月5日	給湯を使用中に大きな音がしたとの需要家からの通報を受けた事業者が現場を確認したところ、給湯暖房機の前面カバーが変形していた。当該住宅は外壁塗装工事をしており排気筒付近に養生した痕があった。塗装業者は養生の取り外しを忘れていたとであった。排気筒が養生で覆われていたために点火不良となり、機器内部に充満した未燃ガスに着火爆発したものと推定される。	東京都
	2009年4月3日	需要家から「給湯器を使用中に大きな音がした」との連絡を受け、ガス事業者が確認したところ、当該機器の全面カバーが変形しているのを確認した。ガス事業者による漏えい検査の結果、灯内内管から器具栓までの間にガスの漏えいは確認されなかった。なお、事故当時、当該建物は塗装工事中であり養生シートが設置されており、需要家は塗装業者から機器使用禁止等の周知はされていなかった。	東京都
	2008年8月20日	需要家から「給湯を使用した時に大きな音がして機器が壊れた」との連絡を受け、ガス事業者が確認したところ、屋外式風呂給湯器の排気口を養生するためテープで閉塞しており、機器本体の前面カバーの一部が変形しているのを確認した。 原因は、当該機器の排気口をテープで閉塞したことにより、未燃ガスが機器内部やパイプシャフトに充満し異常着火したことによるものと推定される。	神奈川県
CO中毒	2006年2月8日	外壁塗装工事の際、塗装工事会社が屋外式給湯器並びに浴室窓をビニールで覆った。これにより、当該機器が燃焼空気不足による不完全燃焼を起こし、排気ガスが浴室の窓から流入、3名がCO中毒となった。	千葉県
	2004年3月18日	被害者が入浴中に気分が悪くなり、浴室からあがり洗面所で倒れているところを家族が発見し119番通報した。原因はアパート外壁塗装工事において、排気トップ及び吸気口をビニールで覆ったため、排ガスが逆流し、燃焼空気不足により不完全燃焼し一酸化炭素中毒になったと思われる。	山形県
	2004年2月25日	朝、住人が起床したところ、軽い中毒症状に気づき消防に通報。通報者を含む5名が救急車で病院に運ばれた。原因は、排気筒が屋内天井裏を通過する屋外設置型F式給湯器の排気筒の先端を、塗装業者がビニールで閉塞したため、前夜、住人が給湯器を使用した際、排気不良に伴う不完全燃焼によりCOが発生し、同時に、圧力がかかった排気が天井内で溢れ、天井内に充満し、時間経過により、部屋底部に滞留し就寝中の5名がCO中毒に至ったものと考えられる。	鹿児島県